

山行報告書

報告書作成

2012年10月16日

山名 [山域]	荒川三山・赤石岳 [南アルプス南部]	目的と方法	南アルプスの巨大さを体験する
登山期間	2012/9/14(金) - 17(月)	山行形態	縦走
参加人数	4人		

行動記録

◆9月14日(金)

K宅(19:45) = 0:05 = 岡崎IC(19:50) = 1:03 = 島田金谷IC(20:53) = 1:07 = 道の駅 奥大井音戯の郷 TS1(22:00)

◆9月15日(土) 曇り

TS1(5:30) = 1:10 = 畑薙第一ダムP(6:40,9:00) = 0:50 = 榎島ロッヂ(1120m/9:50,10:00) — 1:50 — 林道分岐(11:50,12:05) — 0:25 — 小石下(12:30) — 1:15 — 清水平★(13:45,13:55) — 1:03 — 見晴岩(14:58) — 1:51 — 千枚小屋★ TS2(16:49)

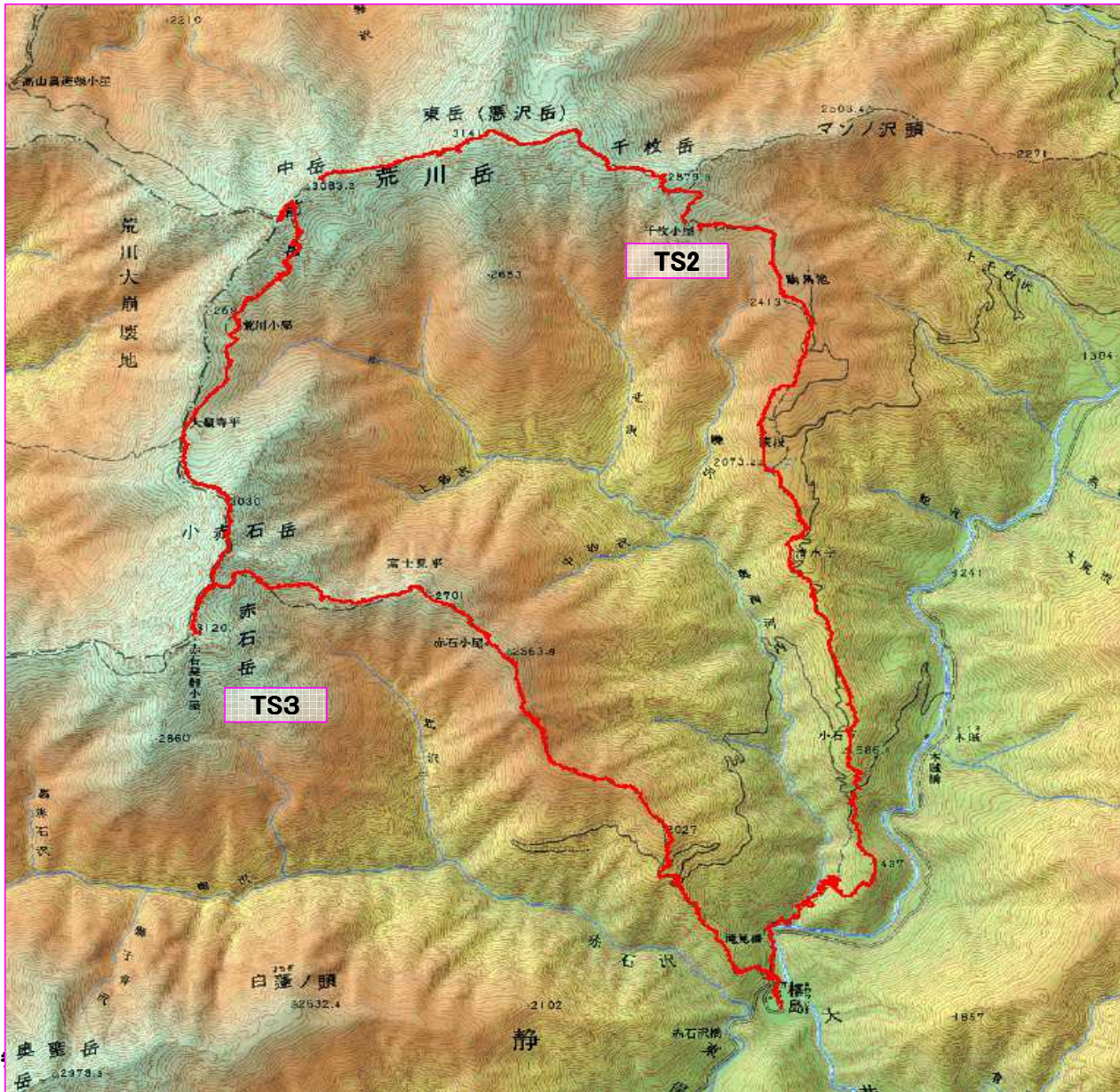
◆9月16日(日) 晴れのち曇り

起床(3:15) TS2(5:00) — 0:50 — 千枚岳(2880m/5:50,6:05) — 0:55 — 丸山(3032m/7:00,7:10) — 0:20 — 東岳(悪沢岳)(3141m/7:30,7:40) — 1:05 — 中岳・中岳避難小屋(3083m/8:45,9:00) — 1:20 — 荒川小屋★(10:20,11:20) — 1:55 — 小赤石岳(3081m/13:15) — 0:29 — 赤石岳・赤石避難小屋 TS3(3120m/13:44)

◆9月17日(月) 雨のち曇り

起床(4:30) TS3(5:55) — 1:30 — 富士見平(7:25) — 0:23 — 赤石小屋★(7:48,8:00) — 2:30 — 榎島ロッヂ(10:30,12:35) = 0:55 = 畑薙第一ダムP(13:30,13:40) = 2:00 = 島田金谷IC(15:40) = 0:10 = 掛川SA(15:50,16:25) = 1:05 = 音羽蒲郡IC(17:30) = 0:50 = K宅(18:20)

概念図



9/14(金)

前夜発でK宅に集合し、島田金谷までは片道100km以内で通勤割引適用範囲内のため20時までに岡崎インターを通過。島田金谷から前夜泊地までの間にコンビニがあるか心配されるが、4-5軒あり翌日からの行動食等購入。前夜泊地に着いたときは小雨がぱらつく天気。テントが濡れるのを防ぐため屋根のある場所でテントを張る。照明の近くだったため多少寝付きにくかった。寝入った頃に団体さんがテントを張りだし翌朝3時頃撤収作業をしていたため、大きな話し声が聞こえており十分な睡眠は取れなかった。

9月15日(土)

早々に準備をして畑雑第一Pへ向かう。途中カモシカに遭遇。野生のカモシカを初めて見た。Pにつくもすでに長蛇の列。始発が8:00のバスだが臨時便が出ているため、すでにピストン運行をしていた。ピストンのタイミングがずれてしまい、結局9:00に乗車。バスの中で少しでも睡眠が取れたらと思っていたが甘い考えだったことにすぐに気付く。重いザックをヒザの上に載せ、補助席でさらにダートな道でバスに乗車している間の疲労感も加わった。今年は雨が少なくダムの水不足が心配された。さわら島から歩き出す。川沿いを少し歩き、急登が始まる。地図を見ながら歩いているも、まわりの地形と地図と自分の位置がつかみづらい…。GPSの奇跡より地図上の登山道と実際歩いた道が違って来たことが帰ってきてから判明。崩れやすい山だこと。また、さわら島~千枚小屋までの登山道を7つに区切り、○/7という表示がある。表示の下にはしゃれの効いたコメントもあり単調な樹林帯の登山道を楽しませてくれた。さすが南アルプス森林限界が高く(2700m)樹林の中を高度を上げていく。途中Sさんがミツバチ?に刺されるアクシデントがあったり、展望のきかない登山道に飽き飽きしながらもなんとか千枚小屋に到着。夏の花は枯れかかっていた。3連休ということもあり、千枚小屋は大盛況170人の宿泊者がいたよう。千枚小屋もまだ樹林帯の中なので、木々の中にテン場がある。10張り程度先客有り。Sさんの誕生日会もかね宴会スタート。鍋だとまだあつかうと思ったが、体が温まり正解だった。夜は星がきらめき、千枚小屋から富士山麓の夜景が綺麗に光っているのが確認できる。

9月16日(日)

朝から快晴。展望に期待できる。朝食も早々に、千枚岳を目指す。遠く赤石岳がくつきりハッキリ見え、今日そこにたどり着くまでに通ることになるアップダウンある登山道を再確認する。千枚岳頂上は風が強く吹いているが、360度抜群の展望。南アルプス~中央アルプス~遠く北アルプスまで望めた。もちろん富士山は朝日を浴びて抜群に綺麗だった。千枚だけから丸山までは鎖がかかっている場所もあったが、危険箇所なく通過。マツムシソウが咲いており秋を実感する。ウラシマツツジの葉が色づき紅葉している。悪沢岳頂上は登山者が多く、記念撮影し風が強いので早々に通過。悪沢~中岳まではガレている道を下り中岳までの登り返し。南アルプスの縦走は楽じゃないなあと思い始める。中岳避難小屋を経て、分岐でザックをデポして前岳へ。荒川小屋までは標高差500m程を下る。途中お花畑が広がり、遅咲きのハウサンフウロが咲いていた。荒川小屋ではお目当ての荒川カレー(1000円)なるものを頂く。山の上でこんなに本格的なカレーが食べれるなんて幸せが。代々荒川小屋伝統のカレーらしい。水場は枯れることもあるらしいが、豊富な水量だった。赤石岳へ向かう。天候も下り気味だったので小休止を挟みながら、500mを登り返す。小赤石の辺りではすっかりガスってしまっていたが最後の力を振り絞り、無事赤石岳登頂。歩いて1分の赤石避難小屋で今夜は宿泊(東海フォレストルール)。小屋番の方は素敵なお夫婦。到着したらお茶のサービスがあり頂く。ストーブの上に大きなやかんがかけてあり、自由に使って良いとのこと。水場はないのにありがたいサービス。避難小屋限定のバッチや手ぬぐいが置いてある。赤石岳山頂付近を散歩中ブロック現象に遭遇。初めてで感動。聖岳の方向はすっかりガスっていて展望は利かず。16時の気象通報では接近している台風は速度が遅く、明日大きく崩れることはなさそうとの予想。しかし期待した夕焼けはすっかりガスが出てしまい少し残念。星空を期待して寝るも、夜中に小屋の外で強く吹く風の音、トイレに起きた時も強い風と雨で外のトイレに行くのに苦労した。

9月17日(月)

天候は回復せず、小屋の方に「台風の影響で雨風強くなる前に早々に下山の方がよい」とのこと。宿泊していた20名程の登山者とともに下山準備をし、足早に下山。樹林帯の中に入るまで1時間頑張りなよと声をかけられる。バス待ちも心配されたため、足下に気をつけながら早々に下山。さわら島でのバス待ちの間にシャワーを浴び、食事を済ませ有意義に過ごす。帰りのバスで運転手さんよりこの3連休はお盆よりも人が入っているよと言われ、混雑ぶりがうかがえた。運転手さんまでも、さっきなかった石がごろごろ落ちてくるなあ…。と。本当に荒れやすい山域なのだ実感。私たちのバスが通過した後も、人では動かさない程の石が道路に転がってきて、後続のバスは一時通行止めを受けたよう。

東海フォレストのバスシステムは山には入るときの障害になりやすいが、安全に通過していくためにはマイカーでの乗り入れを禁止せざるをえないかと感じた。

2日目は天候に恵まれ素晴らしい展望を見ることが出来ました。気象通報で地図が少し書けるようになっても天気予報となるとあまり身につけているとはいえなと思いました。初日の登りで鉄塔や電線の位置から自分たちのいる位置がなんとなく分かり、地図をみて山に登る癖が付いてきたように思いました。次回、赤くなっている赤石岳が見てみたいです。憧れの山域に無事に行くことが出来、参加メンバーに感謝します。